

だから、さ・よ・な・ら

高橋真紀子

山形県・31歳・会社員

ひとつの恋に幕を閉じ、少し臆病になっていた頃、衝撃的ということもなく二人は出会ったのよね。他の人と子どもの話をしたから、結婚してらってというのは最初から分かった。あなたに会う前、体のリズムが崩れる程の辛く傷ついた恋をして、自分に自信が持てなくて、いつも引いてばかりだった私に、お前はいい女だとばかりに猛烈にアタックしてくれた。

最初はちょっととまどって本気にしなかったけど、気が付いた時にあなたの腕の中で幸せな時間を過ごしていました。今までにないぐらいにね。30歳を過ぎて、これだけ人を愛するという事が出来た喜びと、愛されることの安堵で毎日が充実し、あなたといると、もっと昔から一緒だったような錯覚さえ感じる程でした。

今すぐにはいらないが、時間をかけてでも絶対に俺がお前を幸せにするからという言葉に、結婚なんて出来なくてもいい、一生この人と心がつながっていれば、他に何も望まないってぐらい一生懸命だった。夢中だった。でもね、そんな夢の中から現

実に叩き出される瞬間が、あなたの携帯が鳴った時。二人の顔が同時に陰の表情になり、私は息を殺しながら、空間からかすかに聞こえてくるあの人の声に耳をかたむけた。電話を切って、何でもなかったよとばかりに陽にかえるあなたの笑顔で、それまでいっばいだった私の中の罪悪感が、不思議と消えていきました。

何も望まないなんて思ってみても、毎日そばにいてほしいという気持ちも正直な自分だし、でも、あなたの帰る所は別の場所で、そこにはかわいい天使が三人も待っているんだもの。5年前にお前と出会っていたら、とつぶやく様なあなたの言葉にどう理解したらいいのか悩んだ結果、楽しかった思い出と憂いを残し、また幕を下ろそうと思います。第2幕目上がる事を、心のどこかで信じながら。

ありがとう、大好き、愛しています。
だから、さよなら

※彼とはまだ不倫という形で付き合っていますが、このコンテストに応募しようと言ったのも彼で、
普段の不安な気持ちを表現してみました。